# 平成２５年度　第１回　東京都地方独立行政法人評価委員会
# 高齢者医療・研究分科会議事概要

**１　日　　時**

平成２５年７月２日（火曜日）　午後２時５７分から午後４時３６分まで

**２　場　　所**

東京都庁第一本庁舎３３階北側　特別会議室Ｎ１

**３　出席委員**

髙久分科会長、河原委員、近藤委員、鈴木委員（分科会長を除き、五十音順）

**４　議　　題**

（１）　地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター平成２４年度及び第一期中期目標期間業務実績報告について

（２）　平成２４年度地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの業務実績評価（案）について

**５　報告事項**

平成２５年度の評価委員会開催スケジュールについて

**６　議事概要**

開会

○高齢社会対策部施設調整担当部長より挨拶

（１）　平成２４年度及び第一期中期目標期間業務実績報告について

○東京都健康長寿医療センターより平成２４年度及び第一期中期目標期間業務実績について報告（資料１及び資料２）

**【平成２４年度業務実績報告書について質疑応答】**

■　新病院になり、外来患者は増えたのか。

（健康長寿医療センター回答）

→現在は旧病院と同程度となっているが、移転前に患者数を絞り込んだためである。今後増えることを期待している。

■　初期臨床研修医は何名在籍しているのか。

（健康長寿医療センター回答）

→各学年で８名、２学年で１６名である。

■　研修カリキュラムに外科を必修にした評判はいかがか。

（健康長寿医療センター回答）

→心臓外科医が副院長になったこともあり、外科の研修医を積極的に採りたいということでプログラムを組んだが、運用開始は次年度である。

■　トランスレーショナルリサーチの一番の目玉は何か。
（健康長寿医療センター回答）
→一番進行している研究は、体幹神経を刺激する器具を用いた尿失禁の治療で、現在治験を行っている。また、認知症の早期診断のためのバイオマーカーの開発や、RPGM(急速進行性腎炎)の遺伝子解析を進めているところである。

■　退院前合同カンファレンスを行っているが、退院支援にはどのくらい注力しているのか。
（健康長寿医療センター回答）
→退院支援の要となる MSW を各病棟に専任で１名配置し、また、リンクナース（困難事例をピックアップして退院支援チームに伝える役割の看護師）を各病棟に１名配置している。患者が入院すると、退院後の行き先について、入院から２、３日後には評価を行い、困難事例になるであろう患者については、早期より退院支援チームが関わるという体制をとっている。

■　MSW１名に対し患者は何名か。
（健康長寿医療センター回答）
→退院支援が必要な患者は限られるため、実質 MSW１名に対し患者１０名程である。

■　財務内容の改善等において、都立病院とのベンチマークを行ったとあるが、どのように行ったのか。
（健康長寿医療センター回答）
→収入については、診療単価が高い都立病院について、DPC の在院日数によるものか、扱う症例に重症度が多いか等、様々な角度から３ヶ月に１度ベンチマークを行っている。今後は６５歳以上の入院患者についての在院日数の違いを分析していきたい。

■　緩和ケア病棟について、稼働率が５０％というのは理由があるのか。
（健康長寿医療センター回答）
→緩和ケア専門医を獲得することが難しく、現在は１名の医師が担当しているため、１０床から１２、３床で運用せざるを得ない状況である。

■　「研究所の任期付固有職員の任期満了への対応を検討」とあるが、これは労働契約法改正を受けてのものか。
（健康長寿医療センター）
→そのとおり。

**【第一期中期目標期間業務実績報告書について質疑応答】**

■　組織目標の進行管理のヒアリングは、具体的にどのように行っているのか。結果は文書化しているのか。
（健康長寿医療センター回答）
→理事長、センター長、経営企画局長が主体となり、副院長や看護部長、事務方の課長級が同席して、各部門の担当者に対し進行状況をヒアリングにて確認している。目標数値の変更は記録しているが、目標達成のための助言等は記録していない。
（委員）
→文書化した方がよい。

■　契約等の事務について客観性を担保するために、内部監査の強化が必要ではないか。
（健康長寿医療センター回答）
→包括外部監査でも指摘されたが、職員同士で行う監査は甘さが出てくる。企業には監査室が独立して組織されているが、当センターではまだそこまで人材を割けない状況である。

（２）　平成２４年度業務実績評価（案）について
○事務局より平成２４年度業務実績評価（案）について説明（資料３及び４）

**【委員意見】**

■　高いレベルで現状維持をしている場合、現行の評語のつけ方だと B 評価になってしまうところが心苦しいところではある。Bの数は増えたが、全体としておおむね例年並みの業績は上げていると評価できる。
■　経営に関しては、B という評定の中に、もう一歩進めてほしいという気持ちがある。

（３）報告事項
○事務局より、今後の評価委員会及び分科会の開催スケジュールについて説明（資料５）